



令和7年度

亀山市立川崎小学校

研究デザイン



教育大綱 基本方針ーⅠ

未来を拓く子どもたちの豊かな学びの実現

亀山市教育関係職員 研究基本方針

一人ひとりの児童・生徒が個性を生かしながら、なかまとともに主体的に学ぶために

- (1) すべての子どもの学ぶ意欲を高め、社会で生きてはたらく「確かな学力」を育てる教育活動をすすめる。
- (2) 教師の授業力向上を追求するとともに、系統的な指導をすすめる。
- (3) 人権を尊重し、なかまとともに、豊かな心と身体をはぐくみ、自己肯定感・自己有用感を高める教育活動をすすめる。
- (4) 地域の人材や活動を活用し、地域とともに特色ある教育活動をすすめる。

1 川崎小学校コミュニティ・スクールとしての基本理念

地域の中で、みんなで生き生きと学ぶ川崎っ子の育成

2 学校教育目標

「ふれあいを通して人と人がつながり 学びにあふれる学校」

- ・保護者・地域と情報共有しながら、協働し、大人も子どももつながる
- ・豊かな学び・確かな学びが実感できる、笑顔あふれる教育活動を創造する

めざす川崎っ子像

- ① 「川崎小学校十か条」を実行する子
 - ② 自ら進んで学習し、思いを伝える子
 - ③ 違いを認め、受け入れる子
 - ④ 心身共に健康で、命を大切にする子
 - ⑤ 自分と仲間、家族と地域を大切にする子
- ☆やさしく、かしこく、たくましく☆

めざす教職員像

- ① 児童理解に努め、自らの専門性と指導力の向上に励む教職員
 - ② 創造的な発想と多くの対話で、教育課題に積極的に取り組む教職員
 - ③ 開かれた学校づくりのため、保護者や地域との連携を深める教職員
- ☆明るく、仲良く、元気よく☆

3 研究主題及び研究領域

一人ひとりの子に『深い学び』を
～魅力ある授業づくり～

研究領域
算数科

4 研究主題設定の理由

① 児童の実態

児童は、人懐っこく、素直であり、多くの児童が学習に対して一生懸命取り組んでいる。一方で、自分で考えて行動することや課題を解決するために話し合うこと、追求しようとする姿勢発展途上であり、学力差の二極化も見られる。また、国語科や算数科については、「記述問題において、何を問われているのか正確に読み取り、条件に合うように記述や選択、理由を書くこと」「文に合う正しい漢字を書くこと」「正しく計算すること」等、多くの課題が見られる。校区には、魅力のある地域教材・教育資産があり、加えて、地域住民・保護者は学校教育活動にも非常に協力的である。本校には、日々の活動で学んだことをより実生活に生かし、生きる力を育むことのできる教育活動を行うことができる環境が整っている。

② これまでの成果・課題

昨年度は、研究領域を全教科・全領域とし、研究主題を「一人ひとりの子に深い学びを」、サブテーマを「～自分の考えを持ち、対話で深める授業づくり～」に設定した。児童が自分の考えを持つことのできる課題設定の工夫や効果的な支援を研究するとともに、話す・聞く力における系統的な指導を進めた。以下が成果と課題である。

- 児童全員が自分の考えを持てるよう、意識して授業をデザインすることができた。
- 座席配置や課題設定を工夫することで、意図的に対話する機会を設定することができた。
- 全教員が計画的に提案授業をしたことで、参観や指導案検討の機会が多かったこと、また、わかる授業推進事業等の外部講師による指導も受けることができたため、指導力の向上につなげることができた。
- 自分の考えを持つことができるよう、課題設定の工夫など引き続き深めていく必要がある。
- 児童が話したい・聞きたいと主体的になるように、対話のねらいを明確にしたり、対話の質も高めたりするよう進める必要がある。
- 校内研と様々な事業とを関連させ、教員の指導力の向上につなげていきたい。

③ 主題設定について

本校の実態及び昨年度の成果と課題をふまえ、本校の児童に必要な力を育成するため、基礎的・技術的な学習や反復的な学習は引き続き必要不可欠であると考え。加えて、教員が授業改善を行い、児童にとって魅力ある授業を目指すことで、児童が授業を楽しんでいると感じるとともに、できるようになりたい・やってみたいと主体的に学びに向かう姿勢が育成されることがある。そこで、研究主題を「一人ひとりの子に『深い学び』を」、サブテーマを「～魅力ある授業づくり～」とし、研修を進めていくこととする。

今年度は、基礎的な学習の定着を図る上で、算数科が習熟度の状況を把握しやすく、全学年で統一して取り組みやすいと考え、研究領域を算数とした。児童にとって魅力ある授業を研究していくことを通して、児童にとって深い学びになるとともに、教員の指導力の向上につながるよう研修を進める。

※「深い学び」とは

子どもたちが主体的・対話的な学習活動を通して、
自分の思いや考えを深めたり、変容させたりしていくこと。



5 研究構想図

「書く力」「読む力・読み取る力」の育成

研究主題
「一人ひとりの子に『深い学び』を」
～魅力ある授業づくり～

児童の基礎学力の定着
教師の指導力の向上

魅力ある授業づくり ～4つの観点と5つの要素～

0 かめやま授業デザインスタンダードの実践

ア 「かめやま授業デザインスタンダード」の取組を継続的に活用した授業を実践しているか。

1 単元(本時)の導入と課題意識の持たせ方

- 児童にとって、魅力ある導入の工夫
- 自分の考えを持つことができる課題や発問の設定
- 学習の目的・スケジュール(計画)・学習方法等、学習の見通しの提示

2 魅力ある授業の工夫

- やってみたい、聞きたい、話したいとなる授業展開
- 教材の特徴を生かした授業の工夫
- 児童主体となる発問の工夫
- ペアやグループ、全体など、目的と必要性を意識した対話活動の実施
- 授業の流れがわかる板書作り
- 効果的な個別の支援

3 学習評価

- ふりかえり活動の実施
- 学習のねらいに沿った視点の提示
- 自己肯定感の涵養につながる肯定的評価
- 子どもの学びの変容の把握と次の学習や指導への活用

イ 全員が考えを持ち、授業に参加できるよう設定しているか。

ウ 魅力ある授業となるよう、各学年の目標を意識した授業展開になっているか。

エ 児童の発話率は高いか、児童同士のつながりがある授業であったか。

オ ふりかえりを毎時間設定し、評価するとともに、次に活かしているか。



学びの土台づくり

基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・「ぐんぐんタイム」の実施 ・「eライブラリ」の活用 ・自主学習ノート・家庭学習の習慣化
- ・読書活動の充実 ・習熟度別学習の実施

なかまづくり 子ども理解と子ども支援

- ・互いを認め合えるあたたかな学級集団づくり ・子ども理解と支援の充実 ・学習規律の徹底

話しやすい環境の設定

- ・児童の実態に応じた座席の工夫など、話しやすい環境の設定

6 研究内容

魅力ある授業づくり

(1)「かめやま授業デザインスタンダード」の実践

- ・「かめやま授業デザインスタンダード」の取組を継続的に活用した授業を実践し、授業改善を図るものとする。

(2)授業研究の観点

○単元（本時）の導入と課題設定の工夫

- ・多くの児童がやってみたいと感じ、全員が自分の考えを持つことができるよう、課題設定や発問の工夫を行う。

○魅力ある授業展開

- ・既習経験、興味関心等に加え、教材の特徴を生かし、子どもたちに魅力的な学習活動や指導展開の工夫を行う。
- ・見通しをもち、主体的に学習に取り組むために、子どもに学習の目的・計画・学習方法等をつかませる。
- ・「めあて」と「まとめ」が相対するよう授業展開を工夫する。
- ・学習のねらいに沿って視点を示しつつ、子ども自身の評価として「ふり返し」を書かせる。また、「ふり返し」によって、教師自身が子どもの学びの変容をとらえ、次の学習や指導に生かしていく。
- ・自分の考えを友だちと共有したり、比較・検討したり、協議したりする対話場面を意識的に設定し、児童の発話率を上げ、児童主体の授業作りを行う。
- ・自己肯定感の涵養を意識し、褒める場面の設定を行う。
- ・適用問題まで必ず行い、学習内容の定着を図るとともに、児童の理解度から授業改善を行う。

(3) その他

- ・年数回の授業研・相互参観日の設定・板書交流の設定等、学校全体で授業改善に取り組む。

目指す魅力ある授業（1学期目標）

- 1年…できた、わかったを増やしていく授業
- 2年…子どもが楽しかったといえる授業
- 3年…児童が算数の用語を活用して、自分の考えを伝え合う授業
- 4年…子どもが分かる・できるを実感できる授業
- 5年…子どもたちが自分たちで課題を決めて、探求し、話し合いのある授業
- 6年…わかる・できるを実感できる授業
- たんぽぽ…自分の思いを表現できる授業



学びの土台づくり

(1)基礎的・基本的な知識・技能の定着

- ・自主学習ノート…課題を自ら設定して探究していく学びの土台づくりとする。
- ・家庭学習の充実…「家庭学習の手引き」を配布し、家庭と連携した家庭学習の習慣化を図る。
- ・読書活動の充実…朝の読書や読書チャレンジ、ファミリー読書リレー等の読書活動を推進する。
- ・「ぐんぐんタイム」の実施と「eライブラリ」「キュビナ」の活用…月に1回の「ぐんぐんタイム」を設け、子どもたちの実態に応じた基礎学力の補充を行うとともに、「eライブラリ」「キュビナ」を活用し、個別最適化した学習に取り組む。

(2)なかまづくり・居心地の良い学級づくり、子ども理解と子ども支援

- ・生活部と連携し、なかまづくりや子ども理解、居心地の良い学級につなげるために、Q-Uの実施と結果共有に基づくアセスメントと対応策、なかまづくり、学級づくり、SST、人権教育、いじめを見逃さない学校づくり、道徳の授業づくりなどの研修を進める。